

刊夕 日八月四



定額一圓五角 一月五圓 三月十圓 半年二十圓 一年四十圓
 印刷所 常務印刷部 電話六三〇番
 發行所 常務印刷部 電話六三〇番
 社址 東京市神田區神保町三丁目五番地



新入學と
 兩親 (2)
 平第一 學校長
 篠山 龍

(二) 第二は獨立心の獎勵である。子供の訓練とは要するに、獨立心の涵養にほかならぬといふも、敢し過言ではない。家庭の躰にあつても亦、何を措いても獨立心を培つてやらねばならぬ。併し乍ら家庭は何といつても保護と愛育の場所である。幼い子供は兩親、祖父母、兄弟、叔父母等年長者によつて、勞はられ、容され、愛されてゐる。友達もあるが多くの親類や近所や、極く限られた範圍の幼稚園友達の種類である。これに反して小學校に於ては全く見ず知らずで、然もお

親や教師の側に十分な指導の用意がなければ、彼らの性格の發達を害ふことが頗る甚大である。初級兒童擔任の教師のもて餘しものは所謂祖母育ちや、獨子で、家庭に於て甘やかされ、我儘一杯を許されてゐる子供である。特に入學前に於て

市長の俸 給は東京 大阪、神 戸が二萬圓、京都が一萬 五千圓、福岡、大連が一 萬圓、沖繩縣首里の市長 は千二百圓。
 互にもなく下もなく、理 解も、同情も、許容も、寛 忍もなく、全く一對一で自 我を主張し合ふ平等社會が 構成されるのである。子供 に取つては獨立心涵養の絶 好の機會であると同時に兩

親や教師の側に十分な指導の用意がなければ、彼らの性格の發達を害ふことが頗る甚大である。初級兒童擔任の教師のもて餘しものは所謂祖母育ちや、獨子で、家庭に於て甘やかされ、我儘一杯を許されてゐる子供である。特に入學前に於て

【朝】味噌汁—京菜 小付 さやらぶさ
 【晝】野菜サンドウヰッチ 紅茶 リンゴ
 【晩】つばき さくらね ぬた わかめ ねぎ
 は我が子の幸福のために、兩親は十分に反省して大いに我子の獨立心の鼓舞獎勵せねばならぬ。
 (三) 子供を入學させた以上、學校と教師とを信頼することは、兩親としての最大の義務である。教育は教師と生徒との間に於ける相互の愛と、信頼によつてのみ真に可能である。子供は幸にして教師に最高の權威を見出そうとするものであるが、若し兩親が家庭に於て露骨に教師や學校を批判するならば、それを聴く子供の信頼は必ず破壊されるのである。家庭に於ける全ての蔭口は、子供の教育上有害であるが、特に教師

の悪口は嚴禁である。學校に對する不満があり、教師に對する注文があるならば直接にこれを訴へて、家庭に於てはその長所のみを語る用意が必要である。
 (四) 學校と教師を信頼することは何より大切であるが、それと同時に兩親の常に考へねばならぬことは學校は子供の教育にとつて萬能ではないといふことである。世の中には子供は學校にお任せして置きさへすればよいものと、思ひ込んで居る呑氣な兩親が少くない。これは不心得の甚しいものと言はねばならぬ。教科書的知識の習得といふことは子供教育のほんの一部分である。アメリカ教育協會は、教育の七大原理として、學科教育のほかに、健康の保持と立派な家庭の成員たらしむること、職業の訓練と、健全なる娛樂と、良き公民たらしむることと品性の陶冶とを擧げてゐる。それらは家庭との協力なくして、學校のみの能く成就し得るところでない。(否、單に學校と家庭のみの力を以てしては不可能であつて、教師と兩親とは手を携へて社會の淨化廓清に乗り出さねばならぬ程のものである)特に初學年にあつては學校自體に於ても、學科が

主たる目標ではないのみならず、今日の進歩した學校は、その雰囲気を含めて家庭化しようともゐるのだし特に未發達な社會化の不分な、傷み易い、子供の養護の點から云へば、兩親と教師との連絡が、極めて密接であることを必要とするのである。

藤沼醫院

平町・紺屋町 電話五〇七番

花の春衣大賣出し

- 4月1日ヨリ7日間 陽春の感觸を染識の妙技に よつて表現せし新製品
- 春の新柄錦紗 八〇〇ヨリ
 - 羽二重丸帯 八五〇ヨリ
 - 春柄ニコノ 九〇〇ヨリ
 - モス着尺 二八〇ヨリ
 - 名古屋帯 一〇〇〇ヨリ
 - 英子ル 九五〇ヨリ
 - 人絹と小紋 大特賣
 - 新柄銘仙

三井呉服店

春の洋服。レンコートは信用堂へ!!!

- 背廣服(三ツ揃) 拾一圓より
 レンコート 四圓より
 バ、リ 二圓二十錢より
 トレンチ 三圓より
 レンコート 五圓より
- 一目丁三町平 店服洋堂用信

自轉車は左記

- 有名車を御撰擇下さい 世界的ニ進出セル
- 宮田ノ自轉車 夙ニ堅牢輕快ノ定評アル
 - ゼブラノ自轉車 實用經濟車トシテ好評アル
 - マーツ自轉車
- マーツ號の好評をねたみ羊頭灼肉の策を用ひ偽物を販賣なし商標を侵害なしつゝある者あり法的解決により御得意様の御了計を得ん
- 宮田代理店 エビスヤ商店 電話六六四
 ゼブラ代理店

祝御入學記念 時計・眼鏡賣出し

三月十五日ヨリ 四月十五日マデ
 「無言の雄辯は諸君を招きます」
 御目出度い御入學御進學が近づきました。御祝に是非正確な時計を御求め下さい。
 ▼精工舎腕時計 十ヶ年保險附 七圓五十錢
 ▼眼鏡類は學生諸君に限り一割引
 ……各社レコード新譜續々入荷…
 平町五丁目(釜屋前) 金光堂時計店 電話一九五番

外科 X 光線科 性病科 外科

安齊外科醫院 平町田町 電話四七五番

月曜是非

花見前の紛飾

彼岸前の陽氣の調子では今年の櫻は例年よりも咲き急ぐと見られて居たが、其後の寒冷に祟られて緩んだ含みを固く閉じて終つた、しかしこの一兩日来松ヶ岡公園一帶に淡紅色を呈して来た事に依つても、咲き初めは間近と知られる。

平町は櫻花期に際し、一段と景氣が高調して、事物の動きが旺盛となるのが毎年の例である、是れを花見景氣と呼んで居る。

櫻は萬端の準備を完了して、時季到来を待機の姿であるが、街の様子はどうか未だ何處となく冬の眠りから醒め切らぬ模様で、「花見前」といつた様な派手な前景氣を思はせる色彩は甚だ乏しい。

櫻はバツと咲いてバツと散るのが特徴だ、従つて其の期間は短かい、咲き初めたのを見て狼狽し、是れに對應しやうと焦つて時既に遅し、元來『泥縄式』は失敗のお定まりである。魚を採るに竿をたれて待つと同様、櫻花時を狙ふには、咲かぬ前からの準備が肝要である、もう本月も八日だ、各區各自が一齋に春の装ひを凝らすに決して早くはない、幸ひ本年は満蒙と國防博覽會も開催の折柄であるから、互ひに奮發して、花見景氣を一際目立つたものとし、市制實施前の意氣込みを示してはどうか

低利資金を

三萬圓提供

平庶民金庫から

申込期間来る十三日迄

平庶民金庫では今回遊次金の内から金三萬圓を低利資金に貸出す事となり受付を開始した條件は左の如くである。

(申込資格) 本年三月末日現在に於て昭和八年八月下旬貸出の特別年賦貸付

忠魂祭當日

記念の大會

郡下在郷軍人

聚樂館に參集

既報石城在郷軍人聯合分會は来る十日平町松ヶ岡公園の忠魂祭典をとし同日午後一時半より聚樂館に於いて日露戦捷三十周年記念大會を開催、宣言決議の後に帝國飛行協會四天王中將の國難打開の講演があり餘興には新田町紅君連の一幕劇『躍進日本』軍事劇『戦友』等華々しく演ぜられ當日の順序左の如くである

- 一、開會の辭
- 一、國歌合唱
- 一、勅語捧讀
- 一、支部長の訓示
- 一、決議
- 一、大元帥陛下萬歲

青年學校の新設を協議

新設を協議

青年學校の

石城町村長支會は本月廿日午前十時より平町會館諸事堂に總會を開くが右は從來郡下各町村に設置された青年訓練所は近く廢止され是に變つて青年學校が設けられ

納税表彰式

來る十七日に

納税表彰式

平町では九年度に於ける市内納税組合及び管理者中の成績優良なものを表彰する爲め目下係員が審査中であるが表彰式は本月十七日午前十時より町會議事堂で行はれる豫定である

水道技師

平町に着任

平町水道課主任技師は前籍崎課長が秋田縣小坂礦山に就任以來欠員中であつたが今回元須賀川土木監督所技

木村外科醫院

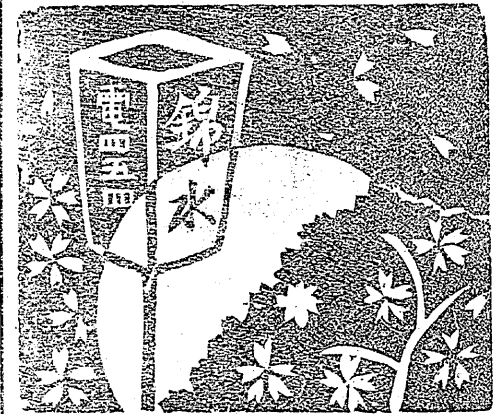
平町六丁目橋際 電話三〇九番

活版印刷 見習生 二名採用す 年齢十五六歳 希望者は來談あれ 常磐毎日印刷株式會社 平町長橋町 電話六三〇

御花見の御催し

の御催し

折詰、辨當の大小に不拘御用命の程を御待して居ります



電話新設

電話五一八番

平町松ヶ岡公園内 春木亭



印刷の御用は設備完全の常磐毎日へ 電話六三〇

家に歸りたさに

主家へ放火

平窪村大字下平窪字笹野田
 津賀マツイ(八)假名が小娘
 の淺墓から放火した事が
 判明した同女は数日前より
 腹痛を起し歸宅方を願つた
 が主人に断られたので主家
 が焼けたら歸宅が出来ると
 いうと紙屑籠に火を放つた
 もので其の大膽さと無茶な
 のには係官も驚かされた

浅墓な小娘の仕業

(四年甲組)黒川兼三 金
 成新一郎(五年甲組)内海
 實 粥塚靖(同乙組)齋藤
 一夫 岡田彦太郎

天気は昨日の日曜 恵れた昨日の日曜

氣早な花見

開花期照會頻り

平町のサーピス振り

平町松ヶ岡公園の櫻は二三
 日前からの暖かさに蕾もほ
 ころびんとして昨七日の日
 曜には氣早やな街の人出で
 相當賑つた

町役場には既に來る十九日
 の小名濱消防組三百名の團
 體申込がある外、磐炭の五
 百人、茨城縣日立製作所の
 五百人等々續々申込相次ぎ
 其他觀櫻期日の照會が櫛の
 齒を引く様に殺到して居る

平町では一般觀衆のサーピ
 スとして來る十四日より公
 園内にサーピス詰所を設け

平商級長 平商業 けふ任命 學校今

學年度前期正副級長は左の
 通り決定今八日任命式を行
 つた

- (一年甲組)鈴木道榮 市
- 毛美德(同乙組)小野正雄
- 立花政雄(二年甲組)賀澤
- 海荒 川利夫(同乙組)秋
- 元清 村上信(三年甲組)
- 松島精 村上信(同乙組)
- 會田長太郎 吉田長一

吉岡所長秘藏の 大黒天靈像

昨日奉齋會を開く

國寶指定方運動

平刑務支所長吉岡家秘藏の
 大黒天の靈像は最近斯道の
 權威者の鑑定により千貳百
 年以前の作で國寶的價値が
 充分であると判明した、右
 御尊像は大石良雄與方の信
 仰篤かつたと傳へられ幕末
 時代には西園寺公東征の折

赤井藥師の 復興寄附金

各區長が協議

平町では豫てより赤井藥
 師の復興に就いて管長旭純
 榮師より應援方の懇請あつ
 た爲め來る十二日午後一時
 より町會議事堂に區長を招
 集して藥師復興寄附募集法
 に就いて打合せると

昭和入絹 倉庫焼く

六日午後六時頃錦村字上中
 田昭和入絹會社工事場中山
 組の電氣器具倉庫より發火

明日の天気
 今夜も明日も南
 西の風天氣良し

- 今晚の部
- 後六、〇〇 子供の時間
 - 花祭りのお話と唄 仙臺
 - 佛教子供聯盟兒童
 - 後六、二五 基礎英語講座
 - 國會由三郎
 - 後七、三〇 青年の夕

- 明日の部
- 後八、五〇 花の週間 多
 - 々良外茂三他
 - 後九、三〇 時報 ニュー
 - ス 明日の歴史 番組豫

- 前六、三〇 基礎獨語講座
- (一)武内大造
 - 前七、〇〇 朝の修養「釋
 - 尊の生涯」(七)文學博士
 - 高橋順次郎
 - 前九、三〇 持命近衛師團
 - 觀兵式御模倣：佐々木練
 - 兵場中繼
 - 後〇、〇五 琵琶
 - 後一、〇〇 滿洲國皇帝陛
 - 下奉迎日滿國歌合唱會
 - 神宮競技場中繼
 - 後二、〇〇 家庭講座「鼻

- 力衛生」醫學博士石原元
- 後六、〇〇 子供の時間
 - 合唱 J.O.A.K 唱歌隊
 - 後六、四五 講演「最近指
 - 定せられたる名勝」龍居
 - 松之助
 - 後七、三〇 講演
 - 後八、〇〇 平家琵琶「副
 - 信最後」山田彰真
 - ◎花の週間◎
 - 後八、二〇 ジャズ
 - 後八、四〇 浪花踊一新町
 - 演藝場中繼

四倉管内 聯合檢閲

四倉署管内二町三ヶ村の春
 期消防檢閲は本月十五日午
 前九時より四倉海岸で執行
 行つた

千葉校長 新任挨拶

平第二小學校では今八日朝
 禮の時間に新任の千葉校長
 と横山藤次訓導、披露式を
 行つた

夏野菜の苗類が 降霜で枯死

氣を揉む郡農會

草野村地方の蔬菜のナス、
 キウリ、カボチャ等の苗は
 最近の寒氣殊に夜間の降霜
 苗が萎縮して育たず第一回
 の假植せるものの中には枯死
 するものが多いので郡農會
 では氣を揉み各農村からの
 被害報告を待つて對策を講
 ずべく準備を進めて居る

初めて「流線型」 平町にお目見得

時代の寵兒ポテアク號 今夕福島モーターへ

近代化學の精を盡した新流
 線型を完全に表現した一九
 三五年高ポテアク號は
 一直線に貫く銀線、スマー
 トな曲線の諧調に依つて東
 京、大阪の各大都市に流線
 型の極致と嘆賞されて居る
 が今夕平町福島モーター商
 會に到着、業界に初めて御
 目見得すと

看護婦急派 の求めに應 じます

平町南町
平看護婦會
 電話三〇七

平職界紹介所報告

- 回人を求める方
- △女中 二十二才 尋卒
 - 月十圓迄
 - △小店員 十六才 高卒
 - △精米雜役 二十前後 尋
 - 卒 月七八圓
 - △水汲夫 五十迄 月五六
 - 圓
- 回職を求める方
- △機械工 三十三才 高卒
 - △事務員 十八才 商三修
 - △旅館店員 二十七才 商
 - 卒
 - △女中 四十才 尋卒
 - △事務員 二十才 中卒



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島征史
(監) 寺島征史

第九十四回

征韓是非 (12)

『都會の底にうごめく不平のやからだ』

『いや、われは地方より上京した失業者である』

『職を求めてか』

『いや、主戦論をひつさげて参つたのだ』

『主戦論? ...そのひまがあつたら田舎へかへつて田を作れ』

亡者の一人は、また提灯をゆらゆら振つた、やけにうらめしげに...

『作るべき田がどこにあるンぢや』

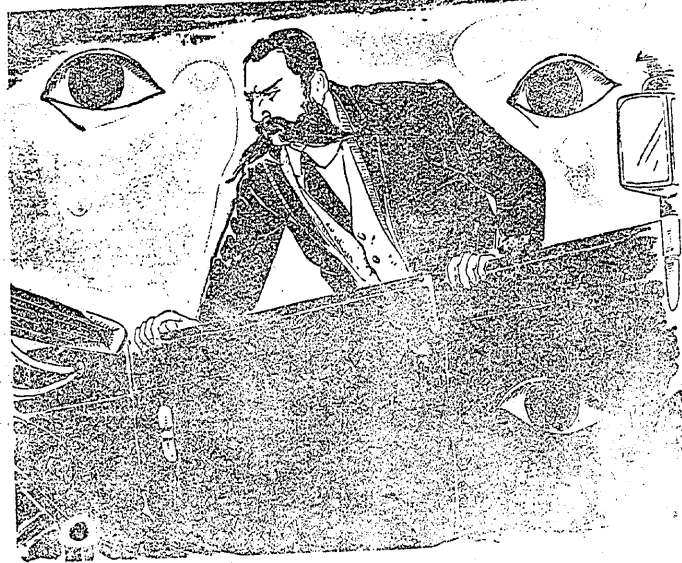
『北海道へ渡つて開こうぜい』

『北海道では満足出来ぬ。われわれは、朝鮮、満洲、蒙古、いやもつと露領シベリヤへまでも往きたいのだ』

その行くべき道をつくつてくれるのが爲政者なンぢや戦争、さうぢや、われわれ失業者を生かす道は、戦争よりほかにない』

『主戦論は、西郷、江藤等にまかしておいてたくさんだ』

『いや、非戦論者のあんたを動かさねばならん。その』



ためにわれわれは決死の覚悟をもつて見参し及んだのだ。大久保閣下、すみやかに閣議を纏め、錦旗を掲げ道へすゝめるやうに運んでもらいたい』

『衣食のことで難澁させる政府當局をわれわれは信頼できぬ。四民の生活を保護せぬ爲政者はたのむに足らん。われわれは、日本民族を自身の熱情と武力をもつて進む』

『武力發揮のときだ』

『ほこを執るときだ』

亡者達は、ぶきみに提灯を振り呪をするやうに叫んだ

大久保は、ふしがな壓迫をこの路上の亡者たちから感じた、西郷からうけた壓迫感と同じものを...いや

る冷笑と同じものを口邊にうかべて

『もしも吾輩が、あくまでも非戦を主張したなら』

『そのときは、われら自力をもつて道をひらくわ』

亡者は、凜とした聲でいひ放つた

『さうだ。自力だ』

吉之助の鈍重な、頭のわるい論法ではなく、亡者の背後にうごめく民衆の見えぬ力の壓迫だ。

と、おもつて、ふと亡者たちから眼を離すと、いつのまにか夕闇の街路の馬車を取まく十重二十重の群集が彼へ眼をうつつた。むら

がる群集の数がぎりがない眼が、みんな西郷の巨きな圓らな双眼となつて生き生きとこちらを凝視してゐるではないか

—おのれ!

彼は、路上にむらがる群集にふしぎな敵意を感じ齒をかみ鳴らした

—おのれ!

おのれは、権力者だぞごみのやうな群衆の壓迫にまけてたまるものか...とおもつて、かみ鳴らした齒のあひだから叫んだ

『のけい!』

が、亡者達はもとより肯後の群集もその場を動かさない。大久保は、収者臺の方へ乗出し躊躇してをる馬丁からむちを取り上げ、憎悪をこめたむちを馬のしもつべたにくれた。

二頭立ての體軀堂々たるお馬車は、矢庭におどりあがつた、亡者も群集たちをも蹴散らすやうにしてかけ出した。

一冊の代金で御希望通りな五冊の雑誌が自由に讀める

川崎巡 回文庫 電話六三〇番 (申込次第規則書進呈)

度量 モノサシ マス ハカリ

吸入用酸素 純度 99%

器量計 體溫計 寒暖計

關内藥局 電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

是非!

御融通には御用命下さい 萬事便利な御相談に應じます

三井質店 平四・電六〇六番

魚問屋 代理代平命生本日大最優最 榮盛賀志 (三一電)目丁四平

玉屋洋品店 平町田町通電話六五六番

